

## EN (絶滅危惧 I B 類)

翼手目 キクガシラコウモリ科

カテゴリ判定基準：B-1, 3

# オリコキクガシラコウモリ

*Rhinolophus cornutus orii* Kuroda, 1924

英名：Orii's least horseshoe bat

旧レッドリストカテゴリ		
1991	1998	2007
—	<b>VU</b>	<b>EN</b>

日本固有亜種（種全体として日本固有種）

日本列島に広く分布するコキクガシラコウモリ（*Rhinolophus cornutus*）の奄美諸島の亜種で、生息洞窟周辺の環境変化や森林伐採により、繁殖洞や個体数が減少していると思われる。

Orii's least horseshoe bat, *Rhinolophus cornutus orii*, is endemic to and distributed only on four of the Amami Islands. In these islands there appears to have been many caves that supported large maternity colonies. The total area of these islands is 1,130 km<sup>2</sup>, but the extent of the actual habitat is severely fragmented and the feeding forests for the bats are decreasing rapidly.

### 基礎情報

■**形態** 種コキクガシラコウモリは前腕長36～44mm、頭胴長35～50mm、尾長16～26mm。本亜種は、他地域のコキクガシラコウモリよりもやや小型である。

■**分布域** 種としては、北海道、本州、四国、九州とその属島および奄美諸島に分布し、本亜種は奄美諸島の奄美大島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部島に分布する。

■**生息環境** 常緑広葉樹の自然林に生息する。

■**生活史** 昼間のねぐらは洞窟であり、夜間に採餌のために洞外に出かける。年に1回、初夏に1仔を出産する。

### 現在の生息状況

■**分布域の現況** 各島とも、かつて数多く生息していた複数の洞窟から近年見られなくなったという。生息が確認されている奄美大島、加計呂間島、徳之島、沖永良部島の面積を合計しても1,100km<sup>2</sup>になるのみであり、これには市街地、住宅地、その周辺の農地も含まれており、実際の生息地面積はこれより狭い。

さらに、本亜種の利用する洞窟については、

近年さらなる内部環境の悪化や消失がみられ、利用されなくなった洞窟もあり、個体数の減少が著しい。

■**生息地の現況** 多くの生息洞窟周辺の森林が伐採されていることが推測される。

■**個体数の現況** かつては多数が生息し繁殖する洞窟がいくつもあったと思われるが、個体数が激減している可能性がある。

### 存続を脅かす要因

森林伐採（11）、圃場開発（15-2）、草地開発（16）、ゴルフ場（21）、土地造成（23）、道路建設（24）、ダム建設（25）、洞内の環境変化（18）など。昼間のねぐらである洞窟周辺の農地化などの変化による洞内の乾燥化と、餌となる昆虫類が年中発生する森林の激減が第一に挙げられる。

ねぐら（とくに繁殖用）である洞窟の保護（周辺の変化による洞内への影響を防ぐことを含む）や周辺のおもな餌場となる広葉樹林の保護が重要である。

### 保護対策の現状

とくになし。

## 特記事項

とくになし。

## 参考文献

阿部永, 2000. 日本産哺乳類頭骨類図説. 北海道大学図書刊行会, 札幌. 279pp.  
阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2008. 日本の哺乳類改訂2版. 東海大学出版会,

秦野. 206pp.

Kuroda, N., 1924. On new mammals from the Riu Kiu Islands and the vicinity, Pub. by the author, Tokyo. 14pp.

日本哺乳類学会編, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 文一総合出版, 東京. 279pp.

Yoshiyuki, M., S. Hattori and K. Tsuchiya, 1989. Taxonomic analysis of two rare bats from the Amami Islands (Chiroptera, Molossidae and Rhinolophidae). *Memories of the National Science Museum*, 22: 215-225.

執筆者：前田喜四雄（奈良教育大学 名誉教授）